

到達目標

教職課程を履修する際の、各年次・学期の到達目標は表 1-1 のとおりである。

表 1-1 各年次・学期の到達目標

履修年次・学期		到達目標
1 年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法をはじめ、多方面にわたる基礎的な教養の習得に努める。 ・現代社会に求められる基礎的な外国語、情報コミュニケーションスキルを身に付ける。 ・体育の授業を通して、心身の健康を保つことの重要性とその方法を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程が専門職業人たる「教員」の養成を目的としていることを理解する。 ・教職の意義や教員の役割・職務内容等に関するガイダンス内容を理解するとともに、身に付けるべき資質、能力獲得に向けた基本的な姿勢・意欲を持つ。 ・教員免許取得までの大まかな学習計画を立てる。 ・教職課程のカリキュラム、履修上の手続きを理解する。
2 年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学校教育の理念・方法・技術について知ることで、学校教育への理解を深め、また、学校教育における問題を分析しそれに対応するための基礎力を身に付ける。 ・学習や発達に関する心理学理論を知り、それらの知見が、教育のなかでどのように活かされているかを、具体的な場面を想定しつつ考察し検討する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学校教育の組織および制度について知ることで、学校教育への理解を深め、また、そのあるべき姿を描けるようになる。 ・地域における児童・生徒の社会教育の機会を知り、そこに積極的に参与することを通して、児童・生徒およびその社会教育に携わる大人とのつながりをもつ。 ・教科指導の基本となる教育方法や評価方法を知り、それらの知見が、教育のなかでどのように活かされているかを、具体的な場面を想定しつつ考察し検討する。
3 年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者に接し、また、その介護等にあたる個人・組織の働きを体験することで、社会の連帯と個人の尊厳に対する意識を高める。 ・道徳の時間の指導法を中心に、学校教育における徳育の意義と、教員が果たすべき役割を理解する。 ・教科の指導に関して、授業計画や指導案の組み立て方、その中での発問や説明の仕方、教科書・教材の活用法、黒板の利用法、生徒の活動の促し方など、授業を行うための基礎的な技能や知識を身に付ける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関して、個別的指導と集団的指導の両面について、カウンセリング・マインドの重要性や学校の指導体制の意義を理解し基礎的な実践力を身に付けるとともに、進路指導の重要性を理解する。 ・教材と教育方法に関する情報技術とその活用事例を知ること、新しい教育方法を積極的に活用しまた開発するための基礎を身に付ける。 ・「地域協力演習」や「社会研修」等への参加を通して、広く社会や地域社会の実態を把握する力を身に付ける。 ・教科の指導に関して、実際に授業案を作成し模擬授業を行うことを通じて、学習指導の実践的な技能や知識を身に付け、指導の工夫を行うことができる。
4 年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習」においては専門教科について観察・実習を行うとともに、学校教育活動全般にわたって教師の仕事に直接・間接に経験する。その際、教育実習校の教育目標・学習到達目標達成を目指すとともに自ら立てた「教育実習の目標」の達成に向けて精進する。事後は「教育実習」の総括を行う。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職実践演習」が全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」の科目であることを踏まえ、教員として求められている使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、生徒理解や学級経営等に関する事項、教科内容等の指導力に関する事項について確認する。 ・これまで記録してきたカルテを振り返り、自己にとって何が課題であるか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教員生活をより円滑にスタートできるようにする。